

界、爲約、現今遣吏員、專行開墾之計、

○按ズルニ、慶應三年ノ樺太島假規則、及ビ明治八年ノ樺太千島交換條約ハ、外交部露西亞篇ニ載ス、宜シク參照スベシ、

〔官報號外〕明治三十八年十月十六日

朕明治三十八年九月五日、亞米利加合衆國、ポーツマス（ニュー・ハンプシャー州）ニ於テ、朕ガ全權委員ト露西亞國全權委員ノ記名調印シタル講和條約ヲ批准シ、茲ニ之ヲ公布セシム、○中

第九條

露西亞帝國政府ハ、薩哈噠島南部及其ノ附近ニ於ケル一切ノ島嶼、並該地方ニ於ケル一切ノ公共營造物、及財産ヲ、完全ナル主權ト共ニ永遠日本帝國政府ニ讓與ス、其ノ讓與地域ノ北方境界ハ北緯五十度ト定ム、該地域ノ正確ナル經界線ハ、本條約ニ附屬スル追加約款第二ノ規定ニ從ヒ、之ヲ決定スベシ、

日本國及露西亞國ハ、薩哈噠島、又ハ其ノ附近ノ島嶼ニ於ケル各自ノ領地内ニ、堡壘其ノ他之ニ類スル軍事上工作物ヲ築造セザルコトニ互ニ同意ス、又兩國ハ各宗谷海峽、及韃靼海峽ノ自由航海ヲ妨礙スルコトアルベキ、何等ノ軍事上措置ヲ執ラザルコトヲ約ス、

第十條

日本國ニ讓與セラレタル地域ノ住民タル露西亞國臣民ニ付テハ、其ノ不動産ヲ賣却シテ本國ニ退去スルノ自由ヲ留保ス、但シ該露西亞國臣民ニ於テ、讓與地域ニ在留セムト欲スルトキハ、日本國ノ法律、及管轄權ニ服從スルコトヲ條件トシテ、完全ニ其ノ職業ニ從事シ、且財産權ヲ行使スルニ於テ、支持保護セラルベシ、日本國ハ、政事上又ハ行政上ノ權能ヲ失ヒタル住民ニ對シ、前記地域ニ於ケル居住權ヲ撤回シ、又ハ之ヲ該地域ヨリ放逐スベキ充分ノ自由ヲ